

認知症の治療について

今回は日本神経学会神経内科専門医の矢部勇人医師に「認知症の治療」について伺いました。



▲矢部勇人 医師

認知症は、皆さんよく名前を聞くことが多いと思いますが、頻繁に名前を聞くのもそのはず、非常に患者さんの多い病気です。加齢とともに、その頻度は増加し、85歳以上では2人に1人以上が認知症になると言われています。どこかで出会わずにはいけない病気です。

これらに対する治療法は、残念ながらありませんでした。しかし、昨年早期のアルツハイマー型認知症や認知症の前段階である軽度認知障害に対して、進行を遅らせることができる点滴治療が施行できるようになりました。

これらの治療は、残念ながら完全に治すような治療ではなく、あくまで進行を遅らせるだけです。症状が進んでしまつてからでは効果がありません。軽度認知障害の場合には、加齢による物忘れと区別がつきにくい程度のこともあります。年のせい、と考えていると、治療可能な時期を逃してしまう可能性があります。同じことを何度も聞いてしまつたりする場合、いつも探し物をしているような場合、おしやれに気がつかなくなつた、趣味に興味がなくなつた、怒りっぽくなつたなど、小さな気になる変化がある場合には一度、専門医を受診してみてください。

これまで認知症に関しては、症状に対する治療はありましたが、原因そ

れまで認知症に関し



す。

物忘れと区別がつき

社会福祉法人
恩賜財団
済生会今治第二病院

今治市北日吉町1丁目7番43号

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/site/saiseikai-imabaridai2/>

☎0898-23-0100

